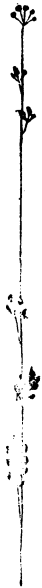


生活、此の生活こそ真に意義あり價值ある生活である。

大難四ヶ度小難數限りなき聖祖の一生は實に意義なる生活であつた。其の門下たる吾人は其跡を繼承してそが理想の實現に力む可きである。之れ吾人に與へられたる使命である。故に此の使命に忠實なる生活こそ吾人の眞の望む處である。然し自己の使命を自覺した上の生活でなければ駄目である。境遇や週圍から強ひられて、止を得ず理想實現とか一天四海とか叫ぶ、斯かる生活は如何に立派であり華やかであるにもせよ、そは虚偽の生活である。眞の意義ある生活とは云はれまい。自覺した上の生活こそ眞に意義ある生活である。

自由に生きよ!! 自己に生きよ!!

眞に吾人は自由の上に建設された主義に生きねばならぬ。



小さな愛國心から

平和を望む人へ

猪口古童

戦争と平和は走馬燈の如うかものであるはなからうか。輒ち科學の進歩せると富國なると愛國心の最も至誠であるに因つて、乃ち其の常軌を逸して悪用された場合には戦争と現はれ、或る根本の意志に接することを得てそを轉用した場合は其處に一大平和を見る事が出来やうと思ふ。現今の社會に於いて、若し經濟關係を度外視するならば万事休止の状態となるであらう。科學を尊重しなかつたら世は暗黒とあるであらう。愛國觀念を取り去つたなら、國家は定めて危険であらう、由來吾國は金歐無缺と歎へられ、四面還海の地を占めて居つたがために天下頗る泰平で、世界禍亂の中心から遠ざかることを得たのであつた。しかし今日に至つては科學進歩から得た諸般の文明は勿論、彼

の軍備に於いて世界列國と比較考察すれば、實際今後の所置を危ぶまずには居られない。洋上にドレッドノートが浮ぶ様になつては、日本の神風果して奇特を現はし得やうか。空中にはツエツペリンが飛ぶ、斯うすれば海洋の深さも大空の廣さも一として墻壁となる丈けの資格がよい。今や國家觀念の薄弱になつた國民が、今後何を頼みに國家を隆運にして皇運を扶翼するのである、此に自分は極端にまで絶叫したい。即ち物質の文明を統御して其の餘弊をなからしむべく、精神文明も共に出來得る限り向上を計り、大いに國民の思想の鞏固を計るために自己の修養を第一の運動基礎として勸善懲惡するのである。即ち善とは行末見込の立つ我國を單位として、如何にしても富國強兵を實現する外はない。随つて惡とは國利民福を妨げ、民族向上の進路を塞ぐことに外からぬのである。だから徒らに國の歴史や國の古いことを誇張する丈けでは實際に萬邦に冠絶した國と云へない。然るに今日では随分無知な政治家などが表は

れて來た。下手に西洋思想の個人主義にかぶれて眞に使命ある國体かゞ、は空頭の沙汰である。教育家の無定見かのものにも驚くであらう。浮薄か考へ方で國体を讚歎し、つまり根抵の無い、即ち由つて來たる原因を解せずして頭から自己擁護の爲めに國家迎合をする徒のみ多い。それに加へて信仰を玩弄する不見識な宗教家には實に響覺せずには居られない。半ば誇示の爲めに力を阻喪された青年僧侶の傳道振りに於て如何程の効を奏するであらうか。斯様な状態で進む國家の前途は必らずや危いことと思ふ。隣邦支那の狀況を見ずや、頭を廻はして米國を見られよ、常に猜疑の眼を以て東洋に、手を出さうとしてゐるではないか、此際國民は國家と云ふ問題に對して、充分に思索をこらさすには居られまい。彼の國民思想の失あつた呪はれた露國最近の窮狀を知るもの如何に思はれつゝあるか。或る一部の人は之に對して抽象的か意見を加へて辯明して云ふには、彼の國の前途は樂觀すべくして決して悲觀すべきでない。しかし

之は露國其のもの丈けならば悲樂に對してさまで影響もあいであろう、しかし是れが若し我國民が斯様な思想を尊重する様になつたならば、果して國家は如何にあり至るであらうか、今日では上下階級通じて所謂空虚的生活者の陸續として蕃殖の度を増して來た。此の病的兆候が往つては國家衰亡の基を爲す原因である。現今青年子女の墮落して行くことは實に夥しい。一方教育者の罪でもあらうが。多くは家庭の不秩序な生活に基く事は最も強い力とあることと思ふ。不秩序だから其處に眞の自由を見出すことが出來得ずして、寧ろ形式の異つた墮落に身を崩して自由を搜し廻るのである。玆に嚴然たる紳士の良心を養成し、情惑に於いて最も高尚にし、一の遊戲と雖も國民の品性風俗に影響を及ぼす事の最も大あるを以て、細小な事に迄も深く注意を拂ひ、かくして社會國家の利益幸福を圖らなければならぬ。義に盡し、社會に盡し、人道に盡し、君に盡し國に盡す人こそ眞に人生に意義あり、仁人であり、志士である。又斯

う云ふ人こそ、眞に愛國の意義を解されるであらう。世に活動するの人は活動しがい人よりは遙かに尊い。しかし私利私慾の爲めに活動するは小人である。如何に其の活動が盛あるも謳歌するに足らぬ人である。

今自分は本然的に國家なるものゝ成立を認むる以上、否殊に一大使命のある我國に生を享けた幸福の民は、根本の大意の力に接して、よく科學の力も富の力も將た又愛國心の力も適法に美化して一大平和を現出することに努めねばならぬ。これは必然的に現はれざるを得ない、吾々の希望である。即ち最も完全な安慰と最も圓滿な平和を現實に於いて欲するからである。即ち他動的ではない、無論偶發的に或る弱點を補ふとして起るものではない。之れ自動的否本能的である。然かるに此の意義ある欲求の其の向上進路を開拓してやる所の原動力を、自分は之を本然的に具備されてある、偉大な意志の信仰に仰ぎたいと思ふのである。由來宗教が宣傳する所の信仰が、能く靈肉二邊に對つ

て圓滿な妥協と、そして調和とを與へるものと聞
く。彼の學理の上からは有無の相即の如うな非論
理的なことは全然許さない。又道德上にしても善
惡不二とか邪正一如などと云ふ如うな道理は許す
筈がない。所が宗教の本質は世間で説く様な道德
とは稍其の趣きを異にしてゐる。随つて世間の道
徳の根本は宗教に起因するものでないことは勿論
である。即ち宗教は性情の特殊な習性であつて、
謙讓と信賴は最も顯著な要素となる、偉大な神佛
の徳化に畏懼と信託との情操を發作して、此處に
遠大なる宇宙の本体に對して起る微少の感と、無
限の生命に對して起る有限の感等は、假使微細と
雖も能く勇氣を與へ、そして煩悶と失望との淵か
ら救ひ出されることが出来る。しかし宗教には種
々ある。今自分が云ふ所の宗教は、即ちこの幸福
をして眞に實現せしむる所の原動力とある尤も鞏
固なる力を有してゐる所の宗教である。こは即ち
信仰を中心とせる宗教であり、且つ其の信仰は以
信代惠の信仰である單ある智的宗教ではあくして

幾多の情操を包含し、能く智情の調和を得、こゝ
に剛健ある意志化されたる力の宗教である。此の
宗教こそ即ち科學及び經濟愛國心等を能く美化し
得る宗教である。これを命名して日蓮主義の宗教
と云ふ。日蓮主義は法華經主義である。即ち佛陀
所說中に於ける中樞たる法華經を、日蓮上人の活
ける信仰を以て人格化されたものである。だから
其の人格の奥底には天地宇宙の靈元たる久遠本佛
の實在ましますことを拜されるであらう。それと
共に、吾々の生命の無限なるをも知るであらう。
其の時其處に自己の眞に尊いことが知られる。そ
して自己の尊重であると俱に、他にも其の美しい
信仰から涌き出た宗教的道德が表現される。此の
宗教的の道德の交換は即ち法悦の生活である。だ
から爰に慰安の靈あり、精神の藥餌あり、生活の
滋味あり、家庭の乾燥以て醫すべく、日常の鬱悶
以て忘ることを得るのである。又之れより發した
信念は、確かに世間道德よりはより大に勢力を持
つてゐねばならぬ。即ち如何なる困難をも忍び、

又正義の爲めには少しも逡巡することがない。彼の衣食に乏しい一寒僧をして『一閻浮提第一の富めるものは吾あり』又『吾によりて國家の有無あり』と絶叫して、正義の爲めには他人の忌諱に觸るゝもなほ辭せしめあかつた。現下宗教の大部分は因襲の久しきによつてか、教權は己に地に落ち果てゝしまつた。彼のキリスト教の如きも、長い間歐洲の天地に教權を擅にして居つたが、今は見る通りの不完全極まる宗教と化けてしまつた。今後人生の意義と價値との爲めに、精神的存在の救助を依頼して安心の出来る完全な宗教とするには恐らく非常の動搖と強い改革が行はれてからであらう。

嗚呼眞に平和を希ふ者よ!!我日蓮主義に來れ!!
汝が日常生活に意義あらしめ、其の把る手段に對して開顯の光を授け、以て其の向上の進路をば開拓されるであらう。(をばり)

無 題 錄

太 田 純 志

今宵は一切の物音が消えて、四邊が死んだやうに静かきのに、木々の繁みを外けて來る懸樋の水の音のみひとり先にと目醒めてゐる。月光の海峽へ立つ山、御題目の聲、秋虫の囁やき、かういふものが私の心の内にある一切の不純なものを、純粹と眞率の世界に導く充分なる魅力をもつて居る。私は心をひそめてかふ云ふ自然に對ふ時、自然のうちにある相背反する矛盾が自然の姿に無くてかなはぬ意味深い性質であると思ふ。なせなれば自然の美しいのはそれがつねにそれ自身の本來の姿であるからだ。圓滿なる月は大自然の意志と愛とによつて無限の希望と光明とによみがへつて居る。偉大なる自然の營み、それは幾度か人間の小ささ、貧しさ、弱さ、醜さを痛まじめる對照として、各自の間に提唱された。或る者は自然を讚美し措かあかつた、或る者は自然を呪ひ止まなかつ